

氏名	江川 昌太
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1278 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	実臨床における悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の有効性、安全性の検討
指導教員	教授 多田 弥生（板橋・皮膚）
論文審査委員	主査 佐藤 友隆 教授（ちば・皮膚科） 副査 渡邊 清高 病院教授（板橋・内科） 副査 市川 靖子 講師（板橋・内科）

論文審査結果の要旨

論文審査の結果の要旨：

帝京大学病院悪性黒色腫患者（2017 年 5 月から 2021 年 7 月に免疫チェックポイント阻害薬を投与された悪性黒色腫患者 14 例の検討である。末端黒子型が 5 名、表在拡大型が 1 名、粘膜型が 4 名、結節型 3 名、不明が 1 例を含み、カルテから後ろ向き検討した報告である。

1. 学位審査論文の題名（邦文：“実臨床における悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の有効性、安全性の検討”）

2. 掲載誌 巻号年：帝京医学掲載予定

3. 共著、単著：単著 IF なし 和文

4. 当該研究に関して

①既知のこと 悪性黒色腫の治療は、免疫チェックポイント阻害薬が適応となつてから劇的に変化し、臨床試験においては生存率、無増悪生存期間、また奏効率が向上したが、実臨床における進行・再発例においては同等の成績が得られないことが経験される。

②未理解のこと 実臨床で大学医学部付属病院皮膚科における悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果と副作用についてまとめた報告は少ない。

③具体的目的：免疫チェックポイント阻害薬を使用した悪性黒色腫患者を対象として、患者背景、治療結果、有害事象について後ろ向きに検討する。

5. 本研究で新たに得られた知見：、6 例が partial response (PR)、2 例が stable disease (SD)、6 例が progressive disease (PD) 14 例中 5 例が最終的に best supportive care (BSC) となり永眠された。

12 例に免疫関連有害事象 (irAE) が発症し、肝臓が最も多く 6 例、皮膚が 5 例（白斑 2 例、苔癬型皮疹 1 例、多型紅斑 1 例）、内分泌が 5 例。消化管とその他は各 2 例、肺が 1 例であった。

Grade 3 以上は類天疱瘡の 1 例と肝障害の 4 例であった。 irAE がなかった症例は 2 例のみで、臨床効果の有意差は不明であった。

6. 倫理的配慮 十分に配慮されており問題ない。

7. コメント

1) 優れた点： 1 大学病院の実臨床における悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬投与患者を検討し、治療効果および免疫関連有害事象をまとめた。

2) 限界・対処：単一施設であること、後ろ向き解析でありデータの欠損なども含まれた。14 例と症

例数も多くはない。

3) 今後の研究への示唆：悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果と irAE についてまとめられたが、今後は悪性黒色腫の症例数を増やす研究や癌種を問わず皮膚の irAE と予後の分析などいろいろな広がりを検討できると思われた。

4) 申請者の知識・理解： 2022 年 1 月 11 日に行われた学位審査会において確認された。

5) その他討論で気付いた点：特になし。

8. 結論： 学位授与にふさわしい。